

## 越生・鳩山新校基本計画検討委員会（第1回） 議事録

- 1 日 時 令和5年7月6日（木） 午後3時開会  
午後4時30分終了
- 2 会 場 県立越生高等学校白梅館2階
- 3 出席委員 栗藤委員長、榎本副委員長、黒須副委員長、小林委員、東委員、丹治委員、早川委員、八木原委員、加藤委員、齋藤委員、高井委員、落合（範）委員、中山委員、秋山委員、荻野委員、桑原委員、大沼委員、四阿委員、関口委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協 議 「越生・鳩山新校基本計画検討（案）」について  
栗藤委員長 それでは、協議に入ってまいります。まず、事務局の方から、この委員会の性格等について説明をお願いしたいと思います。  
事務局 （新校基本計画検討委員会について、今後のスケジュールについて説明）  
栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、何かこの件で御質問や確認したいことはありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料1にございますが、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策に関して、事務局から説明をお願いします。  
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）  
栗藤委員長 実施方策について、説明がございました。昨年10月に策定され、県民の皆様既に公表している内容となっております。何か質問等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、内容について、この後協議をしていくこととなりますので、また細かいことについてはそちらで御意見を頂戴したいと思います。続きまして、この実施方策をもとに、両校において新校基本計画検討（案）を作成していただいております。資料2がその両校の案をまとめて掲載したものでございます。こちらを使って、それぞれの教頭先生、本委員会の副委員長ですけれども、説明をお願いしたいと思います。そうしましたらここは資料2をご覧くださいますと、結構ページ数がありますので、少しずつパートを分けながら進めていきたいと思っております。最初のパートは、1番目の基本理念から始まって、ページをめくっていただいた2ページの基本姿勢、ここまでを榎本教頭先生、黒須教頭先生に説明をお願いしたいと思います。  
榎本副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について越生高校案を説明）  
黒須副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、

育てたい生徒像)、基本姿勢について鳩山高校案を説明)

栗藤委員長 ありがとうございます。最初のパートについてそれぞれの教頭先生から案についての説明があったところです。こちらについて御質問や御意見を頂戴しようと思っておりますが、一つ、私の方から申し上げておきたいことがあります。基本理念の目指す学校というのは、皆さんとも共通認識を持ちたいのですが、目指す学校像とは異なるものです。かなり似ているものだとは思いますが、ここでは異なるものです。目指す学校は、この基本計画の中において柱になるもの、どういった学校を目指していくのかということです。皆さんに馴染みがあるのが、目指す学校像だと思いますが、こちらは学校の自己評価システムシートの中にうたわれるもので、その学校が中長期的にどういう方向を目指して活動していくかというものです。似ているのですが、ここでは分けて考えていきたいと思っています。それともう一つですね、今回の統合というのは、それぞれの学校が、一つは新しい学校を設置する学校、もう一つは校舎を閉じていく学校となります。なので、無くなるという言い方とか、廃校とかそういった言い方は、関係者の方や地域の方にはかなり悲しい響きを持つものだと思いますので、新校を設置する学校、校舎を閉じていく学校というふうに私たちは呼ばせていただいているということを知っておいていただきたいと思います。それでは少し前置きが長くなってしまいましたが、最初目指す学校、育てたい生徒像、基本姿勢は一つ大きなコンセプトの柱となる部分ですので、抽象的な概念になる部分もありますが、こうした文言は是非使ってほしいとか、これはどういう意味なのだろうかとか、質問も含めて御意見がありましたら、皆さんからお願いしたいと思います。挙手をしていただければ担当の者がマイクをお持ちします。それではまず、事務局からどうぞ。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)、基本姿勢について論点を説明)

栗藤委員長 事務局からの論点の説明でした。では、皆さんから御意見をいただきたいと思います。質問でも結構ですので、ある方は挙手をお願いします。

丹治委員 越生高校進路指導主事の丹治と申します。鳩山高校さんに伺いたいのですが、進路状況、ここ数年のだいたいで構わないので、就職と進学割合ですか、教えていただければと思います。ちなみに本校は、だいたい就職と進学が半々程度で卒業していきます。

栗藤委員長 鳩山高校さんに投げかけがありましたので、どなたかお答えいただければと思います。

黒須副委員長 概ね、3年前までは就職の方が少し多いような状態で推移してきましたけれども、今年度に関しては実は就職の方が少ないという状況になっています。だんだんと専門学校への進学が増えているような状況になってきているというのが実際のところですよ。

栗藤委員長 現状の確認ということでした。どういった質問、意見でも構いませんので、手を挙げていただければと思います。それでは、この後もまだボリュームがありますし、途中までいって前に遡ることもやぶさかではありませんので、先に進ん

でいきたいと思います。次の教科指導のパートについて、説明をお願いします。

榎本副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち教科指導について越生高校案を説明）

黒須副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち教科指導について鳩山高校案を説明）

事務局 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち教科指導について論点を説明）

栗藤委員長 私から言うのもなんですが、非常に2つの学校の取組というのを反映というか投影させているという感じがします。またそこに、共通する事項がたくさん並んでいるということで、2つの現在の高校が似た学びを実践しているのだと感じる次第です。それを新校にどう落とし込んでいくのかということですね。では皆さんから御意見をいただきたいと思いますので、挙手していただければと思います。

早川委員 越生高校の早川と申します。最初にこの案がいきなり新聞発表で出た時点から、アニメーションという言葉がしきりに使われていて、県民から寄せられた意見をまとめたものを見ましたが、アニメーションが独り歩きしているのではないかという意見があり自分もそう思いました。アニメーターという仕事に関しては、随分前からブラックであるということはもうある程度進路指導をやっていれば分かるようなことだと思っていたのですが、そこでアニメーション、アニメーションと。アニメーションに関する科目などをとありますが、具体的な「など」の部分がどこまで経っても出てこないのがなぜなのか大変疑問です。これで本当に生徒が集まってくるのか、集まった生徒に将来の夢だけ見させて終わってしまうのではないか心配です。進路実現ということも最初に出てきていますが、希望する進路に行かせることができるのだろうか。我々が生徒を送り出すときに、信頼できる企業、長く続けられる企業に就職をしてほしいという願いで、生徒と一緒に勤め先を精査して斡旋するように努めています。果たしてこれがそういうことに合致するのか大変に疑問です。この辺り県の方で企画されている先生方、どのような状況となっているのか是非お伺いしたいと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。アニメーションに関する学科やアニメーションの学び、科目のことなども方針の方から出てきているわけですが、現時点で、事務局の方から、アニメーションの学びというのがどんなイメージでいるのか説明をお願いします。

事務局 まず、アニメ、アニメと大分基本方針にもうたっておりますが、そもそも今回の再編整備をする観点ですが、地域の期待や社会のニーズに対応した特色ある学校を設置することが必要であると当課では示しております。これまでも、越生高校美術科で取り組んできたことがたくさんあるかと思えます。今回の新校もこれまでの越生高校美術科で取り組んできたことをベースとしながら、それに加えて、アニメーションという新しい学びを加えることにより、より一層の特色を出せるのではないかと考えて、今回このような案を出したところもございます。では、アニメーションの学びとはどのようなことかということですが、学習指導要領を見ますと、専門美術の科目の中に絵画がございまして、その指導項目の中に、漫画・イ

ラストレーションというのもありまして、その中でもアニメーションに触れているところもありますので、これまでの美術科の学びの中でアニメーションも触れていけるかと考えています。また現在の越生高校の美術科でも、映像表現という科目を取り入れているかと思いますが、その中でも、アニメーションについての内容を取り入れていると聞いています。それをより深めていければと考えています。外部の専門家と言いますか、外部機関と連携しながら、より実践的・体験的な学びも深めていけるのではないかと考えています。また、アニメーションの学びというところをイメージしているのかということですが、アニメーションというとなんとなく世間で言う商業アニメのようなイメージがありますが、こちらが考えるイメージは、絵や物を少しずつ動かしながら撮影して撮り上がった画像を連続再生するという映像表現方法の一つではないかと考えています。アニメーションの中にも、2Dアニメーション、3Dアニメーション、クレイアニメーション、ストップモーションアニメーションなど様々な表現方法がありまして、いわゆる商業アニメの手法も含めて、扱っていきたいと考えています。そういったところでこれまでの越生高校美術科の学びをベースにしながら、また、外部人材等を活用しながら、新しい要素をプラスできたらと考えています。まとまりませんが、このようなイメージを持っています。

栗藤委員長 事務局としては、現在の越生高校の美術科の学びに着目したというところがあるようです。いかがでしょうか。

早川委員 などの部分はどのようなのですか。

栗藤委員長 科目ですか。

早川委員 はい。他は何かあるのか、想定しているのかどうかですね。

栗藤委員長 実際の教育課程につきましては、来年度、それぞれの学校で構成する3番目の委員会というのが用意されておりまして、新校開設委員会の中で具体的な教育課程等を組んでいきますから、本格的な意見はそこにあるわけですが、現段階で何か事務局として出せるもの、アイデアはありますか。

事務局 先程、委員長からありましたとおり、具体的な実際の科目は、令和6年度からになるのですが、イメージとしては、これまでの越生高校に映像表現という科目があるのですが、そこでアニメーションの学びを既に取り入れているということも聞いていますので、それを更に学びを深めていくといったことや、また、学校設定科目で、例えば、アニメーション学やアニメーション基礎といった科目を新たに設定することも、想定としてはございます。そういったところに、外部の連携機関ですかね、例えばアニメーションスタジオや専門学校、大学などの講師等を招きながら、学校設定科目を設定できたら良いと考えています。などに含まれるかどうかは何とも言えませんが。

栗藤委員長 具体の科目名については、先程も申し上げましたが、新校開設委員会の中でということになりますけれども、早川委員からも心配のお声が上がりましたが、アニメーションという概念は非常に幅広いので、その中の、例えば、商業アニメのアニメーターのブラックな仕事ぶりというところまでフォーカスしてしまうと、な

んとなく生徒がそこに追いやられるというイメージになるかと思います。アニメーションは非常に幅が広い世界で、幅広に学んでいくというのが、学習指導要領には記載されており、我々も現行の美術の教科書等も見させてもらう中で、例えば、クレイアニメーションなどいろいろな形があり得ると考えているところです。アニメーションのところで、いろいろな方が疑問を感じたり、いろいろな思いがあるのかもしれない。もう少し時間を取りたいと思います。アニメーション関係で御意見がある方は挙手をお願いします。

丹治委員 外部機関というのは具体的に何かあるのか教えていただきたいのですが。  
事務局 今まだ確定はしていないところで調整中というところではありますが、坂戸市にあるアニメーションスタジオとの連携を調整しています。また、アニメーション制作に携わっている大学の講師等も何名かいらっしゃるの、そういったところとも調整中というか交渉させていただいています。今後、学校とも連携を取りながら内容を深めていければと思っています。調整中ですが、当てはあるということで御理解いただければと思います。

栗藤委員長 どんな外部機関とつながるかということで、スタジオや大学の先生という2つのチャンネルが今の時点であるというお答えでした。この際なので不安を拭いていただければと思います。

早川委員 心配事ばかりで申し訳ないのですが、私には中学生の子供がおります。令和8年度ですともう高校生になっておりますので、当たらないのですが、現中学校1年生が、第1期生になるかと思っています。中学校からの配布物など逐一チェックしているのですが、具体的には、希望してくる中学生とその保護者、そして中学校の先生が中心になってくるかと思っています。実際のお客さんに当たるそのところに正確な情報をダイレクトに届けてほしいという、そういった意味でアニメーションという言葉が独り歩きしてしまうと心配だなという思いがずっとあります。こういったところが公開されるということであれば、アナウンス活動ですね、こういったところは県の方で慎重に行ってほしいという希望が、保護者としてもあります。よろしくをお願いします。

栗藤委員長 今のは、私たちに対する思いというか、要望ということで、真摯に受け止めたいと思っております。他いかがでしょうか。それでは繰り返すようで恐縮ですが、先に行って戻ることもできますので、次のパートに進んでいきたいと思いません。続いて、生徒指導について、両校の教頭先生から説明をお願いします。

榎本副委員長 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について越生高校案を説明)

黒須副委員長 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について鳩山高校案を説明)

事務局 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について論点を説明)

栗藤委員長 委員の皆さんからの御意見をお願いしたいと思います。疑問点でも結構です。生徒指導に対する考え方については、国の方もこれまでとこれからということで新しい考え方を示しているところではありますが、ただ、先生方から見て、毎

日目の前にいる生徒をどんなふうに正しく導いていくかという点では大変な御苦労があると思います。そうしたことをうまく盛り込んでいくというか、先生方の視線を一つに揃えて、生徒指導ができるような環境ができると良いと思っているのですが、両校案が同じようなことを記載しているということで、恐らく学校の在り方が似ているのだと思います。なので、大きくギャップがあるようには見受けられないですが、この後、文言を詰めていくことになりますので、こういう言葉があった方が良いとか、この言葉よりこちらの方が良いというのがありますと、事務局としては大変助かります。そういう観点で、これまでもそうでしたしこの先も御意見をいただければと思います。生徒指導についていかがでしょうか。では、前に戻れるということで、先に進み、気づいたところで振り返りながら調整していきたいと思います。進路指導について説明をお願いします。

榎本副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち進路指導について越生高校案を説明）

黒須副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち進路指導について鳩山高校案を説明）

事務局 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち進路指導について論点を説明）

栗藤委員長 進路指導について、委員の皆さんから御意見をいただきたいと思います。疑問点でも結構です。

丹治委員 基本方針3つが、恐らく全て美術系の方針になっているように見受けられます。普通科も設置される予定とのことで、普通科の生徒の進路について、どう考えているのか、美術科のことばかり教える感じがして普通科に対してのアピールポイントが余り見られないかと思いました。これで進路保障という言い方ができるのか正直疑問です。現在進路指導担当ですが、中学校へ訪問して説明する際に、説明しにくいというのが感想です。何か考えがあれば教えてください。

栗藤委員長 基本的にはそれぞれの高校さんから出されている案で、当然、普通科の生徒のことも考えながら作成いただいているものと考えています。そういうふうにこの案を読んでもらいたいのですが、もし事務局から何かコメントすることがあればお願いします。

事務局 確かに、丹治委員がおっしゃるとおり、アニメーション・美術に関する科目のことが主体に書かれているところがあります。普通科は、広く普くというところもありまして、なかなか基本計画の中で書きにくいというのが正直なところでございます。ですが、詳細の教育課程等は来年度から考えていくことにはなりますが、イメージの方はしていきたくはないですので、また先生方と教育課程はイメージしていきたいと思います。しっかりといろいろな生徒の進路希望に応じて多様な科目を設置するですとか、後は地域と連携した探究活動など、そういったところも普通科の生徒もアニメーション・美術に関する学科の生徒も取り組んでいきたいと考えております。詳細に関してはまた両校の先生と詰めていきたいと考えています。

栗藤委員長 進路指導というよりは、普通科と専門学科が併置されている場合の話というところもありましたが、事務局が言いたかったのは、全体のトーンとして専門

学科寄りとの記載となっているが、これはどうしても普通科が普く広くということ  
で色が付きにくい、無色透明に近いものだからである。そこに、越生高校で言えば  
美術科、鳩山高校で言えば情報管理科が併置されており、普通科と専門学科が併置  
されている場合に、専門学科の色が普通科ににじみ出てくるものであるが、だから  
といって普通科の部分をうまく言語化するというのはなかなか難しく、書かれてい  
ることがどうしても専門学科のものに集まりやすい、ということかと思えます。私  
もそう感じています。今、御指摘いただいた進路指導の部分で、専門学科のことだ  
けでなく普通科のことも考えられているのかということだと思えますが、そういっ  
た視点を、進路指導に限らず全般そうだと思いますが、意識しながら文言化でき  
るよう事務局で検討していただきたいと思えます。ごもっともな御指摘をしていただ  
いたと思っています。余り答えになっていませんけれども、よろしいでしょうか。

加藤委員 鳩山高校の加藤です。基本方針のところで、クリエイティブな分野とかア  
ニメーションに関する科目など、かなりセンセーショナルなワードが並んでいま  
すが、ほとんどの中学生が、アニメーターになれる、アニメに関する仕事に就けると  
思うのではないかと思います。うちに説明にいらしたときに、坂戸のアニメスタジ  
オが生徒を1名雇っても良いという話をいただいているというお話をされていま  
したが、出口として、余りにも狭き門だと思います。であるならば、そういった出  
口以外にも、いわゆるクリエイティブな分野というのはどこを想定しているのかと  
いうのを教えていただきたい。美術とかアニメーションを学んだ上で行くクリエイ  
ティブな分野とはどこを想定しているのでしょうか。

事務局 こちらのイメージとしましては、基本的に美術や芸術の分野は当然クリエイ  
ティブな分野だと捉えておりますし、例えば、アニメ業界ですとか、広告業界、映  
像業界、Web 業界、ファッション業界、ゲーム業界等々がクリエイティブな分野だ  
とイメージしています。また、最近これらの職業以外にも、我々公務員もそう  
ですが、クリエイティブな能力というのは様々な分野で求められており、越生・鳩山新  
校での学びが幅広い分野での活躍、進路先に生かされるのではないかと考えていま  
す。

栗藤委員長 クリエイティブという考え方、創造性を持つという人材ということかと思  
いますが、現在の越生高校の美術科においても、ある意味クリエイティブな人材  
を育てているのだと思っています。だからといって全員が一流の芸術家になれるわ  
けでは残念ながらないですが、そこを入口として生徒たちが様々な可能性を見出し  
たり、先々のより専門的な学びのきっかけとなれば良いと考えています。職業訓練  
校ではないので、アニメーターを養成するというふうには考えているわけではありま  
せん。ただもちろんそういった方向に進む生徒がいてもおかしくないとは思いますが。

事務局 追加で補足をさせていただきます。今回、アニメーション・美術に関する学  
科を設置するということですが、生徒募集の打ち出し方も大事になってくるかと思  
います。全ての生徒がアニメーターになれるとはこちらも捉えておりません。教育  
課程の中で詰めていくところもありますが、どの程度の生徒にアニメーションの学

びをさせていくのかというところもこれから両校の先生と詰めていくことが大事なのかなと考えています。アニメーション・美術に関する学科に入ったからと言って全員がアニメーターに向けての指導を受けるということは考えておりません。これまでの越生高校の美術科をベースにしなが、アニメーションの要素をプラスしていくので、そういった生徒も出てくるだろうという想定です。御理解いただければと思います。

栗藤委員長 基本方針の記載の仕方などからすると、入学した生徒たちが全員アニメーターを狙っていくのではないかとというふうにも読めるといった疑念に対する事務局の説明でしたが、そうではなくて、例えば実際に越生高校の美術科でも3年次に彫刻を選ぶ生徒、クラフトデザインを選ぶ生徒、絵画を選ぶ生徒、ビジュアルデザインを選ぶ生徒、それぞれ最後の主専攻が4つの分野に分かれています。そこにアニメーションがちょこっと入ってくるとか、あるいは映像表現という3年間通しの授業の中で、少しアニメーションのことをより深く触れてみるとか、教育課程はこれからですので、私たちのイメージはそういったところにありますが、基本方針の文言が何かこう100%アニメ学校であるというイメージになっているのだとしたら、私たちも打ち出し方には気を付けていきたいと考えています。

丹治委員 大前提の話で質問なのですが、この基本方針の文面はもう変更できないのですか。

栗藤委員長 これは私の方から答えます。教育委員会で固めたものですので、この文言は既に決まってしまうものになります。

丹治委員 冒頭で鳩山高校さんに質問させていただいたのは、鳩山高校に行こうと思っていた生徒も新校に流れてくる可能性があるからと考えたからです。かなり多種多様だと予想されます。アニメーターやアニメーションに関する出口以外も想定しているとのことでしたが、この基本方針を見るからに、どう見ても専門学校みたいな基本方針なので、中学生や保護者、また先生方も、新校は専門学校的な学校のかなと受け止められてもおかしくないのではないかと思います。なので、ここが変えられないとなるとどうするのかということに心配です。

栗藤委員長 本日の資料の中に、一つの例として、令和2年12月に策定された児玉新校（仮称）基本計画が付いているかと思います。こういったものを作っていきます。ここの最初の辺りにコンセプトのようなものを盛り込みますが、今は基本方針にある3つの刺激的なことしかないですが、それをしっかり説明するような細かい文言がここに入ってくることになります。最終的にはこういうふうな仕上がりなので、これを今作ろうとしているわけです。そのための材料を各学校からアイデアとして出してもらったわけですが、ですので、この3つの文言が、ずっと光り続けるというよりは、この先はこの基本計画に昇華していくと理解していただくと良いかと思います。御心配はよく分かります。そこは私たちも真摯に受け止めなければと思っています。今、内容的には進路指導のところでしたが、生徒の進路、出口を考えるとという意味では、学校のコンセプトそのものを確認すべきということで、前に戻っての御意見、御質問でしたが、時間の関係もあって、もう一つでひと

通り終わりますので、皆さんと先を見ていくこととします。最後、生徒募集とその他がございますので、併せて説明をお願いします。

榎本副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち生徒募集、その他について越生高校案を説明）

黒須副委員長 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち生徒募集、その他について鳩山高校案を説明）

黒須副委員長 本校は通級指導を平成 30 年度から行っております。こういった県の事業について、どのような形をこの後取っていくのかということは、本校の課題でもあります。先生方は頑張っており、生徒も成長して卒業していきます。こういうものについてどうお考えかということはお伺いしたいと思います。

栗藤委員長 事務局から、まず論点について説明をお願いします。

事務局 （越生・鳩山新校基本計画検討（案）のうち生徒募集、その他について論点を説明）

栗藤委員長 最後に黒須教頭からまとめていただいたと聞いていて思いました。両校が一つの学校になって立ち上がっていくということで、両校の特徴をしっかりとアピールして、生徒募集で訴求できるような取組が必要だということかと思えます。十分に、今の取組、特徴、良いところを是非新校の中にもというお話がありました。まさにそうだと思います。魅力ある高校というのは、地域の中学生や保護者にそれが伝われば、必ずやその学校を見てみよう、覗いてみよう、実際に触れてみようということにつながっていくのかと思えます。ただ、世の中でこれだけ情報が出回っている時代ですので、何をきっかけに情報を掴むかというところが、いろいろな意味で難しいところだったり、競合したり競争したりしているところもあります。ホームページでの様々な情報発信や SNS なども、最近の新校の生徒募集を見ていると、児玉新校も飯能新校も、今はそれぞれ児玉高校、飯能高校ですが、こういったところは相当力を入れて取り組んできたことを私たちも傍でしっかり見えています。そういったところも大事だなと思っております。最後にその他で通級指導の継続ということで一つ投げかけがありましたが、事務局から何かありますか。

事務局 通級指導は埼玉県全体で今、7校ほど指定されているかと思えます。鳩山高校を含めて。新校基本計画の中で通級指導をやるやらないをなかなか記載できるかを検討の余地があるのか、難しいところもあるのかと思えますが、関係課、高校教育指導課と調整をさせていただいて、また今後、県全体のバランスも考えて、そういったところも含めて調整させていただきたいと思えます。

栗藤委員長 今の段階では、このような回答となるかと思えます。私たちに与えられた時間はあと 11 分くらいです。最後まで来ましたが、まずは生徒募集のところで御意見を頂戴し、その後全体を振り返るという形で時間を最後まで使いたいと思えます。生徒募集について御意見があればお願いします。

加藤委員 これは高校教育指導課への質問になるかと思えますが、通級指導という名称は変えられないのでしょうか。というのも、生徒、保護者は義務教育の通級指導を想定して中学校から上がってくるので、質問等もあります。別物の話なのですが、

説明にかなり苦勞しています。そういうイメージを払拭しないまま入学して通級指導に関する要望が上がってきたりするので、義務教育の通級指導と高校の通級指導が別物であるのであれば、通級という言葉自体を変えないと、この後もずっと続くと思うので、よろしくをお願いします。

栗藤委員長 今、回答が可能ですか。

荻野委員 御質問ありがとうございます。高校教育指導課の荻野です。通級による指導というのは、学習指導要領で定められているものなので、変更することは結論から申し上げますと難しいです。ただ、学校の中での通称という形で名称を変えるということはできるかと思えます。ただ、学習指導要領では、いわゆる「通級による指導」となっております。

栗藤委員長 工夫の余地はあるというお話かと思えます。他にいかがでしょうか。6ページも含めて、これまでのところで、先ほど話しておけば良かったと思うことなどがあればお願いします。

早川委員 素朴な疑問なのですが、新校に設定される学科名、それから実際の学科なのですが、総合学科とかあるいは単位制などは想定の中にあるのでしょうか。なければいけない結構です。素朴に思っただけです。

事務局 学科名とか、全日制、単位制とかについては、次回第2回の会議で案をお示しできればと思っています。またそこで御意見をいただければと思います。今現在、心の中ではあるのですが、今お出しできるものではございません。第2回で議論を深めていただければと思います。次回宜しくをお願いします。

栗藤委員長 今話題に出たところで、この後、新校準備委員会もあるのですが、ここに集まっている皆さんの2回目というのはもしかしたらもう少し先に行われませんが、その2回目のときには今日の両校の案を一つにまとめて、一本化して、文言を事務局がいろいろと調整したりします。その際には、それぞれの学校さんに相談させていただくこともあるかと思えます。こちらにいる二人の教頭先生は、実は魅力ある高校づくり課の職員でもあります。そういった辞令が出ています。私たちの仕事を請け負っていただいていますので、骨子を作っていく作業と一緒にやっていくことになります。是非、教頭先生方に、こんなことではどうだろうとかどうしましょうかみたいなことを言っていただくことは大いにありかと思えます。ということで、次の2回目では、学科名や学級数をどうするかなど具体のものを入れていきたいと思っています。今日のところは、両校の案についていろいろな意見を頂戴しながら、この後、地域の皆さんの代表である新校準備委員会というところでも、ほぼ同じ資料をもって、意見を頂戴しながら、キャッチボールしながら進めていくということになります。少し先のことも見据えたお話をさせていただきました。引き続き、御意見があればお願いします。

早川委員 度々大変申し訳ございません。要望です。私はもう残りの年数が少ないのですが、これから先の先生方が、実際に新しい学校で、現場で苦勞されるのは非常に心が痛みますので、あえて、本日来ていただいている県の方にお聞きしたいと思っています。新校を作るに当たって、今回のこの第1回がずれ込んでいるという事態で

もう異常だと思えます。その背景には、それだけではないと思えますが、鳩山町の反対ですとかそういったことが新聞報道されています。過去で言えば、飯能新校や吉川の新校があります。こちらでも、地元への説明等が不十分であったということで大変揉めて、吉川新校に至っては、ねじれが生じて当初県の方で想定していたとは違う形で新校が始まるという、おかしな形になったということがあったと思えます。県の方でも御存じかと思えます。そういったことになりますと、結局最後には、現場にいる先生方が苦勞されます。御承知かと思えますが、そういったことがないようにというのが実は一番の心配です。私はもう越生に骨を埋めるつもりでいますので、自分の子供が巣立っていく場所ということで見ております。先生方が苦勞なく、新しい学校で良い雰囲気の仕事されるというのを期待しています。是非そういったことのないように、地元ですとかそういったところとの対話をしっかりとお願いしたいと思えますし、現場の方にもしっかりと情報を下ろしてほしいと願っております。よろしくお願ひします。

栗藤委員長 大変貴重な御意見ありがとうございます。私どもも気持ちは全く同じところにあります。埼玉県として、設置者としての責任で新しい学校を作っていくわけですが、全ては将来の、数が減少していく子供たちのため、学校規模が縮小する中で十分な教育環境が維持できなくなるということがないようにというのが今考えてきていることです。やはり地元の方々にはしっかりと理解してもらわないといけないですし、また、実際に教育活動をやっていただくのは先生方ですので、先生方に気持ち良く新しい学校でお勤めしていただけるように努めてまいりたいと考えております。今日はそういう意味で、教育局の人間もたくさん来ておりますので、現場の皆さんの声をしっかりと受け止めたと思っています。その気持ちを忘れずに引き続き頑張っていきたいと思えますし、また先生方にも御協力をお願いしたいと思えます。時間の方がもうそろそろということですが、最後に言いたいという方がいらっしゃれば、お願ひします。

丹治委員 可能であれば良いのですが、後、3回ほどあるということでもよろしいのでしょうか。次回は学科名や学級数についてということですが、その先も、この会議ではこれ考えとかこれを話し合うとか、事前に分かると、我々も準備しやすいと思えます。可能であれば出していただけると幸いです。

栗藤委員長 協議が終わった後に、この先のスケジュールについて事務局から説明する場面がありますので、そこでお話をさせていただきたいと思えます。急ぐようでも申し訳ございませんが、時間を守りたいと思っておりますので、今日のところは、以上で協議を終了したいと思えます。先ほども申し上げましたが、それぞれの教頭先生が私たちと同じ仕事をしている仲間ということもありますので、今日言い切れなかったところは是非、教頭先生を通じて私たちに届けてもらえればと思えます。それでは、以上で協議を終わりにいたします。